

「んだ、んだ」は、行動のエネルギーであり、源

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事

佐藤建吉

▼「ん」がトリを飾る

前号で明らかにしたように、このコラムは、「いろは」順に書いてきた。いろは47文字に、もう一文字を加え最終号としたい。すなわち、「ん」をトリとする。

筆者の考える現代社会の特徴として、第1に「混沌」、第2に「不確実性」、第3に「多極性」を挙げる。さらに第4、第5には、「対立」と「偏見」を挙げておきたい。

これらのキーワードには、明るいイメージがない。それは理想を掲げるために現実を少し控え目に設定したためかもしれない。「持続可能な未来」を意識すると現状の世界にバラ色の絵は描けない。

そこで、本号ではまず混沌について考察し、未来のために、「ん」のこゝろを導くことにしたい。

▼混沌と秩序ハイモニー

混沌には、対極として秩序という言葉がある。その意味については、ベクトルを用いて説明しよう。矢印で方向を、長さで大きさを示すベクトルは、2次元的にも、3次元的にも、対象の行動(振る舞い)を表現できる。

某国軍の規則正しい兵

この多数のベクトルが、同じ向きに向いている姿は、秩序あるように感じられるが、それを時間的な変化としてコマ、コマの画面としてみると、あるコマのベクトル表示は、一時(いつ)とき(どの)の振る舞いに過ぎず、コマ移動で大きな変化があり、混沌をも読み取ることもある。

変化する具体例としてイワシの魚群の動きを挙げる。イワシの魚体がベクトルとなるが、絶えず動いている。それは、ある秩序を持つているが、混沌の動きもしていることに驚かされる。

魚群の動きは、誰かの指令によるものではないが、衝突することなく整然としている。それは自己の位置や立場を認知する器官を備えているから為せるのであるという。

イワシの各々が、秩序ある魚群を形成し、個と全体を守っている。混沌としてはいるが、秩序が保持されているのである。▼人間の秩序と混沌

さて、人間の行動ではどうだろう。人間の場合、秩序には、「制約条件」としての規則や命令が前提となっているように見える。

士(の)隊列は秩序であり、混沌は見られない。混沌があるすれば、兵士の内心であり、外面に出してはならない。民主主義の国では、秩序を維持しきれず女王陛下の前で失神し倒れる兵士もいるが、この場合、外観上では秩序が壊れ不整であるが、混沌ではない。

▼「不確実性」と「多極性」の特徴

このように、人間の意識と行動が、結果をもたらす。その結果が現在の状況となるが、混沌と秩序の複合的現象の結果である。現在の特徴は、秩序よりは、変化をつくる混沌こそが際だつ。これが、第1の特徴として「混沌」を挙げた背景である。

第2、第3の特徴である「不確実性」、「多極性」は、同じく秩序の対極でもある。「不確実性」は、明確な方向性という秩序をつくり得ない状況にあるので、その不安から生じる。「多極性」は、その原因でもある。見かけの秩序をつくる多くの要素が多極であり、現在をつくる行為者も多様と

なり、不確実性も新たに生じることになる。政治的な駆け引きもまた、現在の世界情勢をつくっている。二大政党制の米国の民主党と共和党、英国の保守党と労働党、など、与党と野党はもちろんだ、少数政党も多数の要素であり、互いに責任が大きい。少数政党も影響を与えることができる存在であり責任もあられる。こうして現状がつけられる。

▼行動の基準となる制約条件の再設定

イワシは、外敵から身を守る器官と術(すべ)を持っていたが、人間は、自身が判断機能を持つており、それに従い行動するか、あるいは行動しないかを選択でき、結果がつくられる。行動の規範や規則の有無が、結果に影響を与える。それは行動への指導概念であり制約条件でもある。

国民の行動に影響を与える概念は、教育によってつくられ、経験が裁量をつくる。行動が、保守

的になるか新機軸を受け止められるかは、こうして個人だけでなく、集団の雰囲気、大きな影響を及ぼす。変革には、制約条件を再設定することが必要となる。

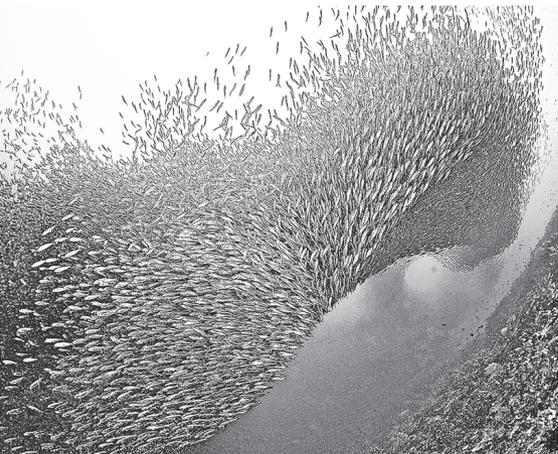
▼「んだ」は、Yesの意味

行動するかしないかの意識には、「責任」という一文字も関係する。責任(responsibility)は、その綴りのように応答する(respond)ことと深い関わりを持つている。

応答は、時間を掛けてはいられない。前方から振り子が向かってくると、き、どう反応するだろうか。真つ正面で受け止める、身をそらす、ひよいと振り子に乗る。あるいは、もう一度戻ってくる振り子を待つ。色々の対応ができるのであるが、どう応答するかである。

筆者の場合、掛け言葉にするのは、「んだ」である。これは、東北弁での発声であるが、投げ掛けに対する応答を、まず「んだ」と受け止めることである。事態を肯定する気持ちである。それは、責任も、妥協も、変革も、受け止める大きなうねりを許容する立場である。Yesの言葉に相当する。「んだ」は、二回発すると、なおいい。

未来は、ポジティブとしてとらえ、そして問題解決することが、行動のエネルギーとなり、源でもある。



イワシの群れ……混沌と秩序の具体例

http://www.divetime.com/images/photos/assets/5/56925-work-Sardines_Tornado.jpg